

プリオン病の治療薬開発研究に向けた臨床疫学研究

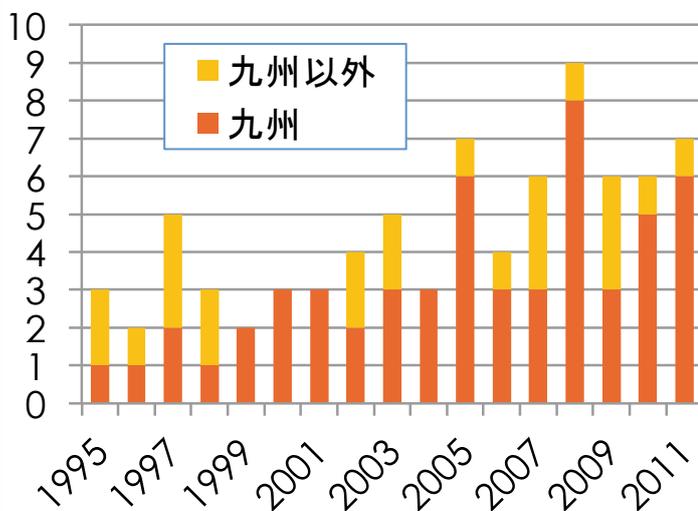
研究分担者: 福岡大学医学部神経内科学 坪井義夫

福岡・佐賀地区のGSS家系研究

福岡-佐賀地区に集積するGSS家系の臨床的特徴と発症素因家族の研究

福岡-佐賀地区にGerstmann-Sträussler-Scheinker病(GSS)が少なくとも20家系存在し、発症者は31例で、サーベイランスで確認された71例中実にその44%に当たる。現在その臨床症候と発症素因(at risk)家族は34例確認した。

サーベイランスデータから見るGSS患者数の推移



GSS患者の年間発症率の推移

	九州		九州以外	
	症例数	発症率 (/Yrs.)	症例数	発症率 (/Yrs.)
1995-2000	10	1.67	8	1.33
2001-2006	20	3.33	6	1.0
2007-2011	25	5.0	9	1.8

解 説

- GSSの発症者数、発症率は過去に比べて増加傾向が続いている。その傾向は九州地区に顕著である
- GSS発症者はやや高齢化の傾向にある
- 発症者の半数は九州地区であり、今後のGSS診療連携により、効率の高い早期診断、疾患修飾治療の開発における基礎データの蓄積が可能になると考えられる。